

資格の学校 平成 25 年度 国税専門官採用試験

TAC 専門記述 社会学

【解答例】

問題

P.ブルデューが提起した文化的再生産論について、次の問いに答えなさい。

- (1) 「ハビトゥス」について説明しなさい。
- (2) 文化的再生産論について、具体的な事例を挙げながら論じなさい。

解答のポイント

国税専門官の専門記述試験は平成 21 年から難化を続けていたが、本年は比較的基本的な学説問題となった。ただし、それなりの分量を記述しようとするとなかなか難しく、苦勞した受験生も多かったと思われる。

(1) について、「ハビトゥス」を定義だけで的確に説明するのは難しいため、具体例を示した方がよい。また、「プラティーク」はハビトゥスと関連の強い概念であるため、こちらについても触れた方がよいだろう。

(2) について、「文化資本」の説明は必須である。具体例は適切であれば何でもよいが、(1) で問われているだけに「ハビトゥス」と関連づけて説明することが必要となるだろう。

なお、以下は「模範」答案という性格上、80 分という試験時間も勘案して細かい内容を示した長めの答案になっているが、実際は上記のポイントが押さえられていれば十分だろう。分量が少なくなる場合は事例を多く挙げるのも手である。

解答例

(1) 「ハビトゥス」とは、経験に基づき個人に内面化された行動への気質・趣味判断・ものの考え方のことである。フランスの社会学者 P. ブルデューは、フランスの旧植民地アルジェリアを調査・研究する中で、通常は「個人的なもの」とされている性向・くせ・態度でさえ社会的影響を受けており、民族・階級・地域・性別などによって特徴が異なることに注目した。また、ハビトゥスと社会的・文化的構造に規定されつつ、実際におこなわれる慣習行動を「プラティーク」(実践)と呼んだ。たとえば、「映画好き」という趣味嗜好はハビトゥスであり、「映画館に行くこと」はその趣味嗜好が現実の行動として表れたプラティークとなる。そして、人々が持つハビトゥスがプラティークとして実践されることにより、既存の社会的・文化的構造が遂行的に再生産されるとした。

ブルデューによれば、ハビトゥスは、社会化の過程で習得され本人自身にほとんど意識されず半ば自動的に作用する。その結果、各個人は自由に行為しているつもりでも、プラティークには一定の規則性が見出せるのである。

(2) 「文化的再生産」とは、文化資本などの影響を通じて、親世代の階層的地位・職業的地位が子世代に引き継がれることをいう。ここで「文化資本」とは、家族などの社会的環境において伝達される文化的な財・知識・言語能力、その他のハビトゥスのことである。

学校の試験をはじめとして、高い社会的地位を得るための選抜基準を作成しているのは、すべて高学歴・高地位の人々である。試験は、いくら客観的に見えても、特定の階層の人たちの知識と考え方を身に付けているかどうかを審査している。ここで、高学歴・高地位の家庭に育ち、家庭環境を通じてごく自然に身につけ慣れ親しんだハビトゥスは、選抜試験の場面で有利に働く。たとえば、小さい頃からピアノなどを習っていればクラシック音楽に強い興味を持つだろうが、そうでなければただの眠い音楽になるかもしれない。小さい頃からテレビの科学番組に親しんでいれば学校の理科の時間は楽しく過ごせるかもしれないが、そうでなければ興味の持てない科目で終わるかもしれない。小さい頃から家庭内で英語が飛び交っていたり親の海外赴任などで英語圏で暮らした経験があったりすれば、学校の英語の時間は苦にならないかもしれない。

このように、趣味判断や勉強への興味もまた出身階層の影響を強く受けているとブルデューは考える。そして、入試をはじめとする試験が、実は上流階層のハビトゥスを身につけているかどうかを判定する役割を果たしており、文化資本を相続した上流階層の子弟に圧倒的に有利であるとして、一見客観的な能力判定の制度が階層の固定化に寄与していると指摘した。

(1, 117 字)